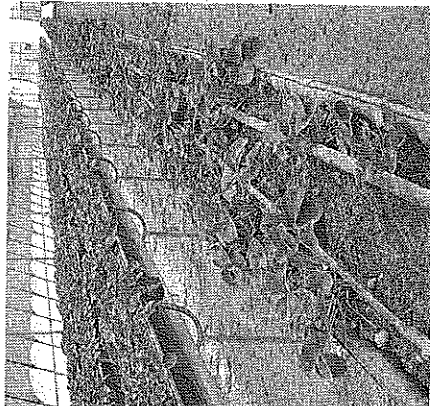


農業法人、アジア

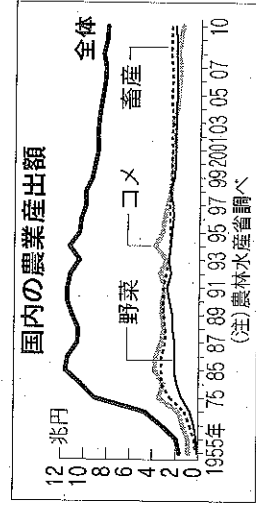
を生産し、世界に輸出する。新興国でも経済成長で中間層が増え、日本の良質な食への関心が高まっている。国内需要減少や環太平洋経済連携協定(TPP)も視野に入しながら海外に活路を探る。



インテリッジが合弁を仲介するインド企業は日本のイチゴ栽培技術を導入している(バンガロール市)

中間層の広がり視野

岡本氏が役員として技術指導する。新組はその見返りに新会社の株式を一部受け取る。16社の水田で試験栽培し、今年5



新興・途上国で食料 日本勢、技術

国内の農業総産出額は、とぼぼ半減。人口減少による国内市場の縮小に加え、担い手不足も深刻なっている。だが、新興・途上国で食料需要が大幅に増え、世界的には食料不足

大気中でシリコン薄膜

フィルテックが低コスト装置

半導体加工技術のフィルテック(東京・文京区古村雄三社長)は大気中でガラス基板に結晶性の高いシリコン薄膜を作る装置を開発した。窒素ガスのエアカーテンを活用し装置内部に大気が入り込むのを防ぎ、基板にシリコンを含む原料ガスを吹き付ける。真空装置が不要で価格は既存品の10分の1になる。シリコン薄膜型太陽光パネルのコスト削減につながる。

れを制御した5層のエアカーテンで装置内部の酸素濃度を0.01ppm(ppmは100万分の1)以下に抑える。原料ガスを800度まで急速加熱して基板に垂直に吹き付ける。基板を加熱する一般的な製造方法と異なりガラス基板に

もシリコン薄膜を生成できる。基板を移動させながら加工するため大型の基板にも対応できる。装置価格は1億円以下と既存の装置の10分の1に抑えられる。太陽光パネルのほか薄型ディスプレイのパネル生産にも活用できる。

ニッチ分野の東北企業

東北に本拠を置くニッパチ分野の大手企業が海外市場開拓を急いでいる。久慈琥珀(久慈市、向正彰社長)やエトスツ製造のモビリティック(宮城県石巻市、保田守社長)は震災後の需要減少を補うため、新規顧客を確保する。久慈琥珀は上海で製品の販売を始めた。代理店を通じて40、60代の女性向けのアクセサリーなどを手土産で扱う。アウトレット店などにも販路を広げ、2014年2月期に中国で5千万円の売りを上げます。震災で同社の売り上げの4割を占めていた東北の温泉地の店舗と観光客が激減し、12年2月期の

海外開拓で需要減補

中小のアジア進出支援

日本技術マーケット 技術を橋渡し

新装置は大気を遮断しガスを吹き付ける機構を基板の搬送装置の上に取り付けた。窒素ガスの流

企業の技術提携などの仲介を手がける日本技術マーケット(東京・港

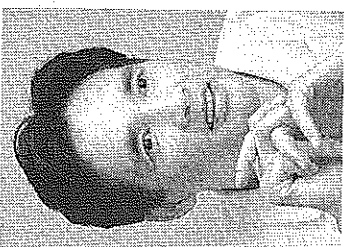
上沢警最高経営責任者)は、中堅・中小製造業のアジア進出を支援するサ

トビスを始めた。インターネットの高談仲介サイトを軸に海外でのパート

ナ一選から契約、事業の計画立案や運営までを一貫して支える。現地ニーズが高い環境自動車、植物工場関連などの日本の技術を売り込む。企業は仲介サイト「ビズトラ」に自社の技術を登録する。これをもとに現地事情に精通した人が事業パートナーをす。日本の技術を紹介するセミナーも開く。現企業が技術を提供し得る企業を募集できる。10月に中国語版、

昨年8月、グロービス経営大学院学長の堀義人は、フタバ社長の孫正義との公開討論会に出席した。東京電力福島第一原子力発電所の事故で「戻原第2」の機運が高まるなか、堀は3時

起業の軌跡



堀 義人学長
1986年(昭和61年)京大工学部卒業。住友商事入社。大塚建設に入社。1992年、茨城県真立市に設立。50歳

グロービス経営大学院 堀 義人学長

興味を持てず、就職先も任じた」と思いつきアイデアを温めながら帰国する。住居の事業として、ビジネススクールを立ち上げる道も模索したがなかなか、独立を決意。6年余の勤めを1992年7月に退社した。3時間2万円の賃し教室、生徒数20人からのスタートだった。後発でも大手ビジネススクールに育ったのは徹底した顧客本位の戦略にある。授業内容に不満があつた愛

人材こそが、即行動

久慈琥珀やモビリティック 中国に相次ぎ進出